

(英語・外国語活動)

**「読む」「書く」につなげる英語教育のあり方を探る  
～実践を通して行う発達段階に応じたカリキュラム開発～**

大阪市立新今宮小学校 山田文乃・新今宮のなかまたち

**1. 研究主題設定の理由**

小中一貫校として昨年度開校した本校は、その取り組みの一つとして小学校1年生からの英語教育を掲げている。保護者や地域からも厚い期待が寄せられ、全市から注目されているといっても過言ではない。1年生からの英語学習については学習指導要領に十分に示されていない中、昨年度は『英語』を研究科目として全教職員で取り組み、手探りで英語年間計画「いまみやカリキュラム」を作成することができた。

それを踏まえ、今年度は、小中連携を今後進めていくうえで課題となる「読む」「書く」活動を、昨年度作成したカリキュラムにどのように取り入れていけばよいのか実践を通して研究してきた。9年間を見通した「いまみやカリキュラム」の充実に向けて、モジュール学習で学んだ内容をベースにした、発達段階に応じた「読む」「書く」活動のあり方を探った。

**2. 研究の概要**

研究主題に迫るため、以下の6点を中心に研究を進めた。

○授業実践を通した指導案・カリキュラムの作成

昨年度作成した学年ごとの指導案を実施・検証・改訂した。国や市から提案される英語教育の方針や動向を見守りながら、今後、英語を一つの教科として教育課程内に位置づけ、ほかの教科学習の時間を圧迫しないで継続的に行える体制づくりも検討した。

○英語モジュール学習として行う文字付き音声指導の実践

国における平成32年度の新学習指導要領実施及び平成30年度からの新学習指導要領先行実施（予定）に向けて、指導法・指導体制において円滑な移行を促すため、大阪府が実施する「小学校低学年からの英語教育」に沿って、担任が実施した。週3回15分間、配布される大阪府指導案をもとに学習を進めた。

○授業研究会の実施

各学年（特別支援を含む）年間1回、合計7回以上、今年度の研究テーマに沿って、事前の指導案検討会と事後の研究討議会を伴った授業研究会を実施した。

○校内研修会・伝達講習の実施

研究を推進するために具体的な指導法や流れの組み立て、アクティビティの習得など、必要な研修会を年間4回実施した。また、外部講師を授業研究会の指導講評に招聘し、その際に研修会を開催して、様々な角度から今日の英語教育に対する知見を深められるようにした。

○小中連携の強化

小学校の英語学習に2回に1回の割合で中学英語教員がT2として関わり、小学校の現状を理解してもらう機会にすると共に、小学校教員が苦手と感じている英語の発音や場に応じたティーチャーズ・トークを行い、小中連携を進めた。

○英語に親しめる環境の整備・教材教具の充実

英語を身近に感じられるようにするため、校内放送や校内掲示などを工夫する。また、教材・教具の整備を行い、いつでもだれでも活用できるような英語教材の充実を図った。

### 3. 研究の成果と今後の課題

どの学年も、基本週3回のモジュール学習と週1回の英語学習を行った。また、年間9回、講師を招聘した授業研究会を行い、授業後の討議で指導講評をいただいた後、ミニ研修会を実施した。文部科学省や大阪市の英語教育の動向や、英語指導に対する指導法の多様性を学ぶことができた。また、校内研修会は年間4回、ワークショップ形式のものを中心に行い、日頃の活動を客観的に見直し、理論的に整理し直す機会とした。このような積み重ねの中で、小学校英語に関する指導方法、教材開発の研究や学習指導要領の改訂等についての理解を深め、指導者一人一人の資質向上を図ることができた。その結果、どこにもない先駆的な研究ができた一年だったと言える。本屋にもネット上にもない、「小学校英語教育における『読む』『書く』のあり方とは？」を手探りでイメージし、授業研究を通して形にし、毎回の研究討議でその姿を徐々にはっきりさせてきた。まさに、本校教職員が一丸となって研究を進めてきた成果といえる。

#### (1) 研究の成果

成果1：子どもたちの英語力が向上し、英語を身近に感じられるようになった

- 英語を好きになり、生活の一部となってきた
- フォニックスのルールに当てはめて発音し、読んで意味を理解するようになった
- ネイティブのような発音が自然とできるようになり、聞く力も高まってきた
- 発音のちがいを自分の言葉で表現するようになった
- 週3回のモジュール学習が、よいインプットとなってきた

成果2：指導者の実践力の向上

- 担任がT1となって授業を進めるスタイルの定着
- 計画的な校内研修の実施による指導法やアクティビティの習得
- オリジナル教材の開発
- ICT機器の活用
- 短時間で効果的な指導法の追求～英語と日本語の使い分け～
- 積極的に英語を話そうとする子どもを育成するための「場の工夫」

成果3：「読む」「書く」英語指導のあり方が見えた

- 音・文字・意味を結びつける指導法の工夫
- 文字を意識させる指導を指導者が意識できるようになった
- 「読む」「書く」視点を入れた1時間ごとの指導案と学年ごとのカリキュラムを作成できた。
- 週3回のモジュール学習を個別にアレンジした

成果4：カリキュラム開発と英語を教えるための校内整備

- 1時間ごとの指導案の作成と学年ごとのカリキュラム開発
- 教科と関連づけた授業の組み立て
- コミュニケーションツールとして英語を実践で生かす取り組み
- 英語モジュール学習の時間設定

#### (2) 今後の課題

- 活動形態・内容のさらなる工夫
- ゲームのルールをシンプルに、デモはわかりやすく、児童の活動時間を確保する
- ICT機器トラブルに対応する代替教材の準備
- 積極的に発音・発話する児童とそうでない児童の差についての指導者の認識